

長彦神社参拝の栞

鎮座地 岐阜県大垣市上石津町一之瀬辰之田

御祭神とその由来 支那津彦神、支那津媛神

この神は神代の昔、伊邪那岐・伊邪那美の二神が大八島の国々を眺められた時、狭霧が立ちこめていたのでこの狭霧を吹き払うために、はかれた息によってなり出た神といわれ、天照大神と同格の神で、皇大神宮内宮の別宮風日祈宮ならびに外宮の風宮と同じように風禍防災・五穀豊穰・家内安全を祈願し、風の神としての御神徳は全国にあまねく知られています。

由緒 長彦神社は一之瀬の「たつた」に鎮座され、養老郡でもたいへん古い神社の一つにあげられています。私たちの住家に近い美しい山などは、神の

鎮まります霊山として、また祖先の魂のよりどころとして、敬虔な態度でこれを崇拜することは古い時代から続いてきました。この一之瀬の宮山も、山に神をおまつりした古い姿の神社の一つであり、宮山神奈美の杜と川は自然と人との信仰の微妙さをあらわして、朝日と夕日かがやく趣きに深く根をおろした地形になっています。「たつた」はその昔江戸時代のはじめまでは「たつの」と呼ばれ、即ち神降臨の祭場として、古くから氏子の人々によって五穀豊穰・風禍防災・家内安全をお祈りしてきました。

志奈津彦・志奈津媛の両神が勧請されたのは、今を去る一千二百年の昔で、国史にも明らかな如く、天武天皇白鳳四年(六七五年)四月、壬申の乱の功により、当国の人美濃王・当郡の人佐伯連広足の兩人を遣わされ、大和国平群郡立野にまつらしめられた風神即ち竜田神を、その神託によって朝日

の向かうところ夕日の日かげるところ市之瀬「たつの」の宮山にいきまつ
られたと伝えられています。

以来氏子の崇敬いよいよ篤く、神威ますます隆昌をたどり平安時代貞観十
一年(八六九年)十月五日に、長彦神社には従五位下を授けられたと三代実録
に記されており、更に八十年後には従四位上を授けられたことが美濃国神
明帳にあきらかです。以後江戸時代に及び長彦大明神とも流れ彦大明神と
もよばれ幾度かの御造営・御遷宮が行われたことは棟札に記されています。

明治三十三年十月一日に御氏子の御努力により郷社（まち）に昇格されました。昭
和に入っては社殿の改築・境内の一新が行われ、近年には、玉垣の増築・

社務所の改築・大鳥居
の造営等、昭和六十年
には神社本庁よりモデ
ル神社の指定を受け、
名実ともに郡内随一の
名社として氏子の魂の
よりどころとして万民
崇敬（まこと）の社として今日に
及びました。



2007年4月1日、新しく神殿の屋根が葺き替えられ、
盛大に記念式典が行われました。